

# 事業評価シート（平成24年度分）

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	バス利用促進事業		
事業担当	まちづくり政策部 交通政策課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'03	③(利便性) 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	'03	3 まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等			
対象・受益者			事業期間
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
路線バスの走行環境が改善され、市民のバス利用者が増加しています。		バス停での待合環境向上のため、リアルタイムの運行状況の提供を促進します。また、定時制や速達性の向上のため、バス専用レーン化等の取組みを検討します。	

## 2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
	目標						
	実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	バス専用レーン化等導入検討進捗率				単位	%
	説明・算定式	H24:バス専用レーン化等の導入検討 40%、H25:バス専用レーン等の社会実験の実施 20%、H26:導入計画の策定 20%、H27:専用レーン化の実施 20%					
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
	目標	20	40	40	60		
	実績	0	10	40			
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
	目標						
	実績						
進捗状況	①: 予定どおり						
	遅れている理由						
平成24年度の主な取組と成果							
優先レーンの専用レーン化については、バス事業者とバス利用促進会議の中で協議を重ね、現場調査を実施し導入を検討しました。							
平成24年度の検証結果	A: 成果があがった						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	平成20年に行ったアンケート結果によれば、バス停の待合環境(40%)や運行の定時制・速達性(42%)等の向上が望まれています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	バス停の待合環境や運行の定時制・速達性の向上は、バスの利用を促進し、平塚市総合交通計画でめざす交通体系の構築につながる有効な事業です。また、この事業は直接的に市民サービスの向上に効果的です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	中心市街地への自家用車の流入を抑制し、環境にやさしいまちづくりを進めるためには、公共交通の利便性向上を図る必要があります、その目的や内容に妥当性があります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	バス事業者に対する国の補助の活用等、事業者、国、市それぞれの適正な役割分担と負担のもと効率よく進めていく事業です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
<b>今後に向けた課題の分析</b> バス利用を促進するためには、運行の定時性・速達性の向上や待合環境の向上等、様々な施策を多面的に組み合わせた事業展開が必要です。また、平塚駅周辺部でのバス専用レーン化については効果が低いという結論に達したので、今後は郊外部での運行速度が低下している区間について、公共交通優先信号等の導入を検討する必要があります。				

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成22年度 決算額	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
事業内容		バスロケーションシステムの導入	バス優先レーン及び公共車両優先システムの導入検討	優先レーンの専用化社会実験の実施に向けた関係機関との協議	専用レーン化の社会実験の実施、バス走行環境整備事業の検討
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	10,150	0	0	0
事業費 (A)		10,150	0	0	0
執行率 (%)		95.27	—	—	
内訳	職員 (人)	0.37	0.27	0.40	0.45
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		3,056	2,189	3,206	3,577
フルコスト (A+B)		13,206	2,189	3,206	3,577

## 4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

<b>平成26年度の取組方針</b> バス利用の促進を図るために関係機関との連携を図り、定時性・速達性の向上に効果のある公共交通優先信号等の具体的方策の検討を進めます。また、バス停の待合環境の向上についても並行して取り組んでいきます。
<b>課長コメント</b> 総合交通計画の戦略プランに掲げている通り、バス利用の促進は優先的に進める交通施策であり、効果的な施策の推進を図る必要があります。